

鹿屋 早期供用開始を目指して プロジェクトチーム発足



2月21日、東九州自動車道「志布志～末吉財部プロジェクトチーム」が発足し、鹿屋市役所で初会議が開催されました。

このプロジェクトチームは、国と地方自治体が一体となって志布志～末吉財部間の用地取得や設計協議を進めるためのもので、国・県・沿線市町長で組織。それぞれの担当職員などで組織するタスクフォース（実働部隊）も結成され、同区間の早期供用開始を目指します。

申良 新鹿屋音頭を自主制作

申良町出身の原崎信雄さん（大阪府守口市在住）が、新鹿屋市誕生を記念して新鹿屋音頭を自主制作（非売品）しました。

「故郷に対して、すごく愛着を感じています」と話す原崎さんは、20年程前に通信教育で作詞を習って以来、約40曲を作詞。軽快なリズムにのせて、鹿屋市の名所や特徴を歌う新鹿屋音頭も自分で作詞しており、四番まである歌詞は、いずれも「目出度いな」と合併を祝い、「鹿屋音頭で 頑張ろうかい」で締めくくられています。



原崎信雄さん



ハア～ 嬉じゃないか 目出度いな
星の降る街 輝北の郷と
一市三町 心を結び
目指す鹿屋の 新都
サアサ踊ろよ シャシャンがシャンと
鹿屋音頭で 頑張ろうかい

（1番のみ抜粋）

輝北 セイフティドライブ運動 大作戦を実施



2月25日、輝北町上百引の国道504号で、輝北町高校生クラブと輝北町青年同志会が合同で、セイフティドライブ運動大作戦を実施しました。

大隅警察署の誘導に緊張気味のドライバーも高校生の「安全運転をお願いします」という言葉と静電気防止キーホルダーをもらってにっこり。安全運転を約束していました。

申良 町内一周 24.7 kmで健脚を競う



2月12日、申良町内一周駅伝大会（申良町青年団連絡協議会主催）が開催されました。

これは、社会体育の普及や体力向上、健康増進などを目的に開催されているもので、小学生の部に7チーム、中高生の部に5チーム、一般の部に6チームが参加。沿道の市民から大きな声援を受けながら、申良町内を一周する11区間、24.7kmのコースで健脚を競い合いました。各クラスの優勝チームは次のとおりです。

- 【小学生の部】 申良ファイターズA
- 【中高生の部】 申良中サッカー・空手部
- 【一般の部】 下小原

鹿屋 レギュラーとして 活躍したい



2月14日、今年1月に行われた全国高校サッカー選手権で準優勝に輝いた鹿児島実業高等学校サッカー部のストライカーとして活躍した梅大嗣選手が市役所を表敬しました。

母親が市内に住むなど、鹿屋ともゆかりが深い梅選手は、現在、サッカーJリーグの『サガン鳥栖』に在籍。「1日も早くレギュラーとして活躍できるようになりたい」と抱負を語ってくれました。

鹿屋 さつまいもの品質及び 栽培技術を向上を図る



2月17日、市農業研修センターで平成17年度さつまいも生産振興大会が開催されました。

この大会は、市の基幹作物であるさつまいもの品質及び栽培技術等の向上を図るために行われています。青果用及び加工用さつまいも品評会の表彰をはじめ、青果用サツマイモの新しい奨励品種「九州143号」の紹介や講演もあり、生産者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

鹿屋 角川短歌賞を受賞



2月15日、第51回角川短歌賞を受賞した森山良太さん（寿8丁目）が市役所を訪れました。

5回目の挑戦で選ばれた短歌「闘牛の島」は、徳之島高校に赴任していたころに思いをはせて作った歌。県内初の快挙を成し遂げた森山さんは「いい作品をつくり続けたい」と抱負を話しました。

【受賞作品五十首の中から一首抜粋】
夏空のあをを映せる礁池の
潮わが体内に満ちて揺れをり

吾平 吾平地域生涯学習講座 の閉講式



2月19日、湯遊ランドで吾平地域生涯学習講座閉講式が開催されました。

式では、英会話やソフトテニスの講座生による体験発表や読書コンクール表彰、舞台発表などが行われ、講座生がお揃いの衣装に身を包み、にこやかに踊ったフォークダンスでは、観客も一緒にリズムをとりながら、踊っていました。なお、今年度吾平地区では、22講座で432人が学びました。

鹿屋 バスカル・ダベル氏が 絵を寄贈



2月17日、フランス人画家バスカル・ダベル氏が市役所を訪れ、デッサン画を寄贈しました。

バスカル氏は、精神障害を持つ人の家族会「きもつき会」の結成25周年記念チャリティ企画として行われた「現代国際巨匠絵画展」（2月18日～20日まで、市内のホテルで開催）にあわせて来日。「鹿児島に来ることができて光栄です」と話し、フランスの教会を描いたデッサン画を市長に手渡しました。

鹿屋 農高牛乳で乾杯



2月16日、鹿屋農業高等学校で卒業後、本格的に農業に就農する生徒や、専門的知識等を学ぼうとする生徒を励まそうと「営農の門出を励ます会」が開催されました。

励ます会では、農業大学校に進む福末博樹さん（輝北町市成）が「自分の夢を託した祖父の思いを受け継ぎ、立派な酪農経営者になります」と抱負を力強く述べたほか、最後は同校で製造されている農高牛乳で乾杯しました。